

# モバイル通信が救命に貢献 事故急病時に通報・接続を支援

効果を上げたモバイルはこれ!

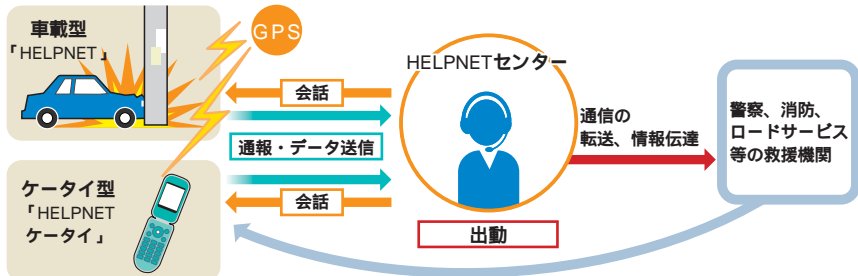
業種	会員向け情報処理・手配サービス
活用分野	事故や急病など緊急時のオペレータ対応・緊急機関接続等のサービス
テクノロジー	車載モジュール、携帯電話、GPS

交通事故等における救命率は、発生直後の十数分間の処置によって大きく左右される。しかし緊急時ほど冷静さを失い、迅速・適切な対応がなかなかできないものだ。そこに、モバイル技術と車載器の進化が相まって新しいサービスが投入された。

専門オペレータとの通話をもとに緊急時に適切な対応を行う緊急通報サービス「HELPNET」だ。

### ▶ 車載器へのモジュール組み込みとGPSケータイへのサービス

2000年9月から提供されている同サービスは、車載型と携帯電話型の2種類がある。車載型は、HELPNET対応カーナビ/専用機を搭載可能な「HELPNET」の仕組み



「HELPNETケータイ」では、ロードサービスの手配や、地図付きメールを自動送信して居場所を伝えられる「新見守りモード」(au) 最寄りの医療機関の案内・検索サービス(NTTドコモ)などの付加メニューも提供されている。

車への「オプションサービス」に加え、2005年からはトヨタの高級車「レクサス」のテレマティックサービス「G-Link」標準機能に採用。一方の携帯電話型は、2002年6月にau/KDDI、2006年10月からはNTTドコモで、GPS対応端末向けに「HELPNETケータイ」として提供されている。

会員数は2007年1月時点で約14万人。「当初は宣伝が行き届かず苦戦も強いられましたが、レクサスでの採用やケータイサービスの開始で利用者が増加してきました」と、松永哲扶代表取締役専務は経緯を説明する。

### ▶ 通報～出動までが3分以下に トラブル対応の情報提供にも注力

車載型の場合、エアバック作動による自動発報または車両内の「HELPNETボタン」を押すことで、24時間365日対応のHELPNETセンターに通報される(携帯電話からは特定キーの長押し) 緊急通報を受信すると、オペレータが画面を見ながら通報者との会話で必要情報を確認。全国数



### 「HELPNETからの通報による救命事例も報告されている」

日本緊急通報サービス  
松永哲扶代表取締役専務(中央)、落合秀広常務取締役(右)、松田徹之営業企画部長(左)

百力所の救急機関(消防署・警察署・海上保安庁)を自動かつ瞬時に検索し、最適な機関に回線を接続する。

松田徹之営業企画部長は、「まず位置、対象人物、車種を特定します。緊急時は誰でも気が動転しますが、会話することで落ち着かれるようです」と対応時の様子を説明する。呼びかけて30秒応答がない場合は、即座に救急車の出動を要請する。

通常の通報では緊急車両の出動までに7～8分かかるが、HELPNET利用では2～3分に短縮。2006年度には、エアバッグ連動自動発報による救急車出動依頼で9件の救命事例が報告された。また、月平均1000件程度の通報のうち約9割はオペレータからのアドバイスで対処できており、緊急車両の不要な出動の削減にも貢献している。

落合秀広常務取締役は今後の方針を次のように語った。「通報時間のさらなる短縮や誤報/真報の判別精度の向上などを進めるとともに、サービス

< QRコードからのアクセス >  
  
 (NTTドコモ用) (au/KDDI用)

ス内容の一層の充実を図っていきます。」

Profile

株式会社日本緊急通報サービス  
<http://www.helpnet.co.jp/>

本社所在地 東京都港区虎ノ門1-7-6  
 設立 1999年9月  
 資本金 11億4670万8100円

事業内容

情報通信機器・システムを媒介とする警察・消防などへの通報接続および業務代行サービス、交通・災害および危機関係情報通信センターの運営管理、車載用情報通信機器・自動車用部品・コンピュータシステム・通信システムの設計・開発・構築・販売・保守など